

成田市文化財審議会会議録（令和 5 年度第 2 回）

- 1-1 開催日時 令和 6 年 3 月 26 日（火） 午前 10 時から午前 11 時
1-2 開催場所 成田市花崎町 760 番地
成田市役所 5 階 502 会議室

2 出席者

（委員）木村修委員長、
岸田照泰、高木博彦、白井久美子、平田和弘、植野英夫各委員
（事務局）関川教育長、保立参事、野村生涯学習課長
中山副参事、小泉副主査、小川副主査
（傍聴人）0 名

3 委員の委嘱について

植野英夫氏を新たに文化財審議委員として委嘱した。

4 成田市教育委員会教育長あいさつ

5 議事

- 5-1 埋蔵文化財の照会状況、発掘調査について（令和 5 年 9 月～令和 6 年 2 月）

概要

照会された件数は全 67 件で、埋蔵文化財の包蔵地に含まれていたのは 27 件だった。

事業ごとの内訳について、例年どおり個人住宅・集合住宅に伴う照会が多くなっている。

教育委員会で開催した市内遺跡発掘調査は 10 件。

大袋椎塚田遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡などが確認され、ほぼ完形の坏などの古墳時代土師器が出土した。今回は戸建て住宅の建築のみで他の造成工事は伴わなかったことから部分的な調査となったが、住居跡が調査区外まで続いていることから、今後建て替え等が実施される場合は引き続き調査が必要である。

松崎名代遺跡では隣接する土地で 2 件の発掘調査を実施した。北側の調査地では多くの遺構があり、縄文時代の土坑が 133 基確認されたが、南側の調査地ではほとんど遺物が検出されなかった。ただし、南側の調査地は攪乱が多く確認

され、地権者から樹木が植えられていたとの話しがあったことから、その影響であると推測される。

南羽鳥遺跡群については縄文時代の土坑 2 基が確認され、縄文土器が出土した。

郷部南台遺跡については縄文時代の土坑が 64 基と近世の土坑が 1 基確認された。

他の個所の発掘調査につきましては遺構が確認されなかった。

千葉県教育振興財団が実施した発掘調査は 4 件。

十余三四本木Ⅱ遺跡(6)では旧石器時代の遺物集中地点が 1 か所と石器出土地点 1 か所が確認された。

十余三四本木Ⅱ遺跡(7)では旧石器時代遺物集中地点 1 か所、縄文時代陥穴 1 基が確認された。

矢作牧野馬除土手(1)及び夜番Ⅰ遺跡では遺構・遺物ともに確認されなかった。

なお、十余三四本木Ⅱ遺跡(6)及び十余三四本木Ⅱ遺跡(7)は成田国際空港の機能拡張に伴う調査、矢作牧野馬除土手(1)及び夜番Ⅰ遺跡は圏央道事業に伴う調査である。

印旛郡市文化財センターによる調査について、令和 6 年 2 月までに終了したものはなかった。

ただし、成田市堀之内地先の堀之内宮ノ台遺跡において発掘調査を実施しており、3 月に終了した。今回の調査は確認調査で、奈良・平安時代土坑が 10 基、奈良・平安時代の住居跡が 2 軒、中世の溝が 7 条確認された。本調査は令和 6 年度を予定している。

民間調査組織による発掘調査は 2 件。

下福田遺跡群は、竪穴住居跡が 38 軒、掘立柱建物跡が 2 棟、土坑 76 基、溝 11 条、ピット 58 基、焼土遺構 2 基が確認された。また、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世陶器など幅広い時代の遺物が出土した。株式会社地域文化財研究所が調査を実施した。

下福田遺跡群Ⅰは、竪穴住居跡が 2 軒、炉穴が 2 基確認され、縄文土器及び古墳時代土師器が出土した。株式会社地域文化財研究所が調査を実施した。

下福田遺跡及び下福田遺跡群Ⅰにおける調査は同一事業に伴うもので、前回の文化財審議委員会で報告した調査の 2 期分の調査であり、ともに確認調査の実施である。今後本調査を実施予定。1 期分については、株式会社地域文化財研

究所と株式会社ノガミの2社により、現在本調査を実施している。

質疑応答

白井委員：下福田遺跡群の1期本調査の詳細は次回という話だったが、1期C区の調査経過資料をみると非常に遺構の密度が濃い。竪穴住居跡はおおよそどの年代が中心か。

事務局：一番古いものは、あまり明確ではないが縄文時代中期で、弥生時代後期の住居も確認されている。大型の住居は古墳時代の後期のもの。あとは奈良・平安時代と続いていく。現地で見たいメージとしては古墳時代後期が一番多い。

特筆すべき点として、想定より弥生時代の住居が多いことが挙げられる。弥生時代の住居は薄く検出されるものが多いため確認しづらいが、古墳時代の住居の合間に弥生時代の住居が確認されている。また、調査区の北側に集中している。

縄文時代中期の住居は、あまり明確に住居の形が確認できないが、調査区の南側で見受けられる。

白井委員：古墳時代後期の住居がかなり密集しているようなので、上福田古墳群・龍角寺古墳群と関係する集落遺跡である可能性が高いと感じた。

事務局：1期B区でも住居の検出傾向は同様で、古墳時代後期の集落が確認されているため、指摘されたとおりのことが考えられると思う。

5-3 三里塚小学校赤煉瓦門、貴賓館、防空壕について

令和5年第1回文化財審議委員会において、三里塚小学校赤煉瓦門は千葉県登録文化財、貴賓館と防空壕については国登録文化財に登録するため手続きを進める旨を報告した。今回、その3施設の経過と今後の予定について報告を行った。

● 三里塚小学校赤煉瓦門

令和6年1月18日に行われた千葉県文化財保護審議会において答申があり、千葉県登録文化財に登録されることが決定した。2月7日付で登録され、同日千葉県でプレスリリースが行われた。成田市でも県に合わせてプレスリリースを実施した。

● 貴賓館・防空壕

第108回諮問のため、意見具申資料を1月末に提出した。今後は、7月中旬に答申があり、11月に官報に告示される見込みである。

質疑応答

平田委員：登録文化財は指定文化財と比べると保護の状況が所有者によるところが大きいと感じている。今後国登録文化財及び県登録文化財を指定文化財にしていく方向で動いていくのか、それともそのまま活用していくのか、方針を教えてください。

事務局：指定にすることは現在考えていない。どちらも管理が成田市であるため、文化財に何かあった場合に十分な対応ができると考えている。指定の意義として、所有者に金銭的な補助することで文化財の保護を図る意味合いが大きい。したがって現状は登録のまま活用する方向で考えている。

植野委員：三里塚小学校赤煉瓦門の登録の要件としては3つの支柱のみか。

事務局：登録されているのは柱のみである。元々陸軍の鉄道第二大隊の駐屯場があった場所から門だけが移設されたため、この門しか残っていない。

6 その他

事務局から、市指定文化財の候補となる文化財について、委員から意見を募った。

植野委員：滑川に所在する龍正院には、数多くの奉納額が保管されている。新勝寺の絵馬にも劣らないようなものがあり、いずれ本格的な調査が必要であると感じているため、事務局でご検討いただきたい。

木村委員長：土室にある助崎大須賀氏の子孫のお宅に大須賀家文書が数点ある。中には小田原の後北条氏が発行した、小田原から下総まで設けられた伝馬宿の使用許可書のような有名なものもある。この伝馬手形を含め、大須賀家文書は千葉県資料集にも掲載されている貴重なものであるが、現在、所在不明となっている。成田の中世文書としては、指定を受けている幡谷家文書と双璧をなす文書であるため、まずは所在を確認し、指定の方向で検討してほしい。

平田委員：成田市ではカタクリを中心とした植生地がまだ点在して残っていると思う。個人の土地が多いこと、また指定してしまうと管理が大変になってしまうという問題もあるので難しいことも多いが、何か情報があれば調査し、指定について検討していただきたい。

次回の開催について

令和6年9月を予定。